

麻酔科

部長 杉本 健太郎

2025 年活動状況

現在は杉本健太郎、野島宏悦、中谷真大、梁瀬賢志、上坪知世の 5 名の医師と外部からの応援を得て麻酔管理を行っています。2018 年 4 月から、元日本麻酔科学会理事長・前岡山大学学長として日本麻酔科学会と岡山大学を牽引してこられた森田潔医師が病院理事に就任されています。年間の麻酔科管理症例数は 3069 件でした。

麻酔科管理症例の内訳は別表に示しますが、その特徴を以下にまとめます。

1. 科別に見ると整形外科が最も多く、続いて外科、心臓血管外科となりました。
2. 近森病院は救急病院であるため整形外科手術がとても多く、特に高齢者の骨折手術が多いです。症例によっては麻酔施行のリスクが高すぎて、全身麻酔管理を躊躇する場面もありました。しかし、整形外科の先生方の「この患者さんは今手術をしないと一生寝たきりになるので、どうしても手術が必要なんです」という情熱に動かされ、「極力断らない麻酔科」を目指しています。
3. 心臓血管外科においては 305 件の麻酔管理を行いました。冠動脈バイパス手術、大動脈解離手術などの緊急手術が多いことが特色ですが、麻酔科も良好な手術成績に貢献しています。
4. 麻酔科管理症例の内、995 件（32.4%）が術前麻酔リスク評価で高リスク（ASA-PS 3 以上）でした。ER、ICU、内科系外科系各科の充実している当院へは、高リスクの症例が数多く搬送されてきます。麻酔科でもリスク評価、術中管理を綿密に行い、合併症の少ない周術期管理に貢献しています。
5. 全身麻酔に伝達麻酔（末梢神経ブロック）を併用する症例が多いのも当科の特徴です。伝達麻酔は出血や感染に伴うリスクが少なく、抗凝固療法中の患者さんにも比較的安全に行えることから、積極的に併用して患者さんの疼痛軽減、早期のリハビリ開始に役立てています。

（表 1）手術部位別分類

脳神経・脳血管	142	頭頸部・咽頭部	97
胸腔・縦郭	57	胸壁・腹壁・会陰	277
心臓・血管	394	脊椎	161
胸腔+腹部	18	股関節・四肢（含：末梢神経）	1064
上腹部内臓	322	検査	0
下腹部内臓	434	その他	103

今後の展望

以上のように緊急手術、ハイリスク手術、高齢者手術が多いことが近森病院麻酔科の特徴ですが、少ないマンパワーにも関わらず大きな問題を起こすことなく管理しております。これには先任の楠目部長・末盛部長・小坂部長が築かれたシステム、人的財産によるものが大きいと考えています。特に、手術室看護師、急性期 CE（臨床工学士）チームは積極的に関与してくださっており、手術麻酔の安全・効率的な運用の大きな支えとなっております。

また、今後の重要課題として、マンパワーの補充をはかり外科系各科、ER の要望に十分応えられる土台作りを目指したいと考えています。近森病院で一緒に仕事をしたいという麻酔科医、研修医の皆様には是非気軽に声をかけていただきたいと思います。



学術発表・講演会等

学会発表

演題	発表者 共同研究者	学会名	開催
森林環境音を流す介入による重症患者のせん妄発生予防効果	杉本健太郎	第 52 回日本集中治療医学会学術集会	3 月 14 日～16 日 福岡
特定看護師と麻酔科医師で管理していた麻酔維持期に発生した冠攣縮性狭心症の 1 例	横田涼 野島宏悦	臨床麻酔学会第 45 回大会	12 月 4 日～6 日 名古屋